

1 学校教育目標

○よく考える子 ○心豊かな子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○皆の人権が守られ、生き生きと生活できる安全・安心な学校 ○確かな学力と豊かな心、健やかな体を本気で育てる学校 ○保護者・地域と連携を深め、信頼される学校
○児童・生徒像	○相手・他者の人権を尊重し、小さなことでも、やるべきことや当たり前のことにしっかりと取り組む子(あいさつ・思いやり等) ○自ら考え、自ら学び、チャレンジする子 ○すすんで体を動かし、心身ともに健康でたくましい子
○教師像	○子どもの人権を守り、共に汗を流し、喜びや悲しみを分かち合う教師 ○日々の授業の充実を目指してチャレンジする教師 ○危機管理(最悪を考え、慎重に、素早く、誠実に、組織的に)を意識し、情報共有・共通実践していく教師集団

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

〈 現 状 〉

- 児童数331名、学級数11(第6学年が単級)。児童は明るく素直で、学習態度、生活態度ともおおむね落ち着いている。
- 児童の安全安心な校内外の生活に向けて、学校・家庭・地域の三者が連携・協働している。
- 保護者や地域の方によるボランティア活動が大きな支えになっている。(見守り、図書、農園、ホームページ)
- 学校と家庭で平時から情報を共有して関係を築くことにより、児童に関わる危険やトラブル等の未然防止・早期発見・対応に努めている。
- 本校が初任校である教員と、今年度の異動によって着任した教員は、17人中9人である。目指す学校像、児童像、教師像を共有し、指導力の向上や授業の充実(改善)に向けて自己研鑽はもちろん、学年等の教員間でも授業研究を推進している。

〈 前年度の成果と課題 〉

- 全教員がそれぞれの立場で危機管理意識をもち、必要に応じて協力して対応に当たることができた。新たな不登校や重大事ないじめ等を防止できた。
- 授業スタンダードの理解は十分である。振り返りまでを確実に行う時間配分や、自力解決場面での個別指導等、授業実践の中で身に付けていく。
- タブレット端末の利活用は、習熟学習や撮影、調べ学習やそのまとめ、発表等で取り組めた。協働学習や個別最適な学びについては授業実践の中で今年度も挑戦していく。
- 授業研究については低中高専の4分科会とも授業を公開し、実践研究を進めることができた。毎月1回の授業研究日を今後も継続させていく。
- 区調査で課題となった算数についてはサマースクールでも補充し、効果を検証できた。今年度も継続させていく。
- 読書についての目標設定が適切でなかった。今年度は実態に合った目標を設定する。また、新たに放課後の図書室開放を始める。
- 本を使って調べる学習活動を今年度も推奨していく。教科学習内容と関連する書籍の設置を継続。本を用いて調べる学習機会を意図的に計画する。
- 学校・家庭の連携・協働により、改善、解消することのできた課題は多くあった。逆に連絡・連携が十分でなく、課題を見逃してしまうこともあった。平時から教員と保護者の連携・連絡をより密に行っていくことで、児童の学校生活の安定と成長を図っていく。

4 重点的な取組事項						
	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	体力向上	○	○	○	○	○
3	心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）	○	○	○	○	○
4	保護者・地域との連携・協力による教育活動の充実	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン									
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)				実施結果 (通過率結果)				コメント・課題	達成度 ◎○△●
2月到達度確認調査において、令和5年度の通過率を維持または向上させる。		4月区調査及び、2月到達度確認調査（通過率） 国・算の順				4月区調査及び、2月到達度確認調査（通過率） 国・算の順				・学力の定着向上に関する取組はおおむね良好に進められ数値的にも成果は見られている。4，5年の算数については目標基準を下回ったが、つまずきは絞り込めているので、短期的にはつまずいている内容を重点に補充し、中長期的には次年度の4，5年算数の単元指導計画を見直し改善を図っていく。	○
		2年:4月 75 70 2月 70 70				2年:4月 91 94 2月 77 81					
		3年:4月 92 90 2月 90 90				3年:4月 98 96 2月 88 90					
		4年:4月 85 85 2月 83 83				4年:4月 88 90 2月 84 62					
		5年:4月 78 86 2月 78 86				5年:4月 88 73 2月 73 65					
		6年:4月 75 70 2月 72 67				6年:4月 79 68 2月 78 78					
B 目標実現に向けた取組み											
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果		コメント・課題		達成度 ◎○△●
1 継続	授業改善	全教員	通年	・経験5年未満及び入区1年目の教員は授業スタンダードを理解し身に付ける。(めあて、振り返り、板書等) ・基礎基本の確実な習得 ・指導と評価の一体化 ・教科担任制の推進 ・区小研での研鑽	・週案 ・授業観察 ・面接(年3回) ・学力調査(4月・2月) ・自己評価 ・学校評価	・100%が理解し実践する。 ・上記通過率 ・教員 100% ・保護者「よい」85%	教員 93 % 保護者 82.3%	・教員15名のうち14名が実践できていると自己評価。管理職の授業観察ともほぼ一致している。 また、児童93%以上が授業はよく分かると回答していた。		○	

2 継続	校内研究	全教員	通年 月 1 回	・ 目指す児童像の設定 ・ 低・中・高・専科分科会の設定。	授業観察 (年 3 回) 年 8 回	・ 年 8 回実施 ・ 具体的な成果や課題の分析	・ 8 回実施。全学年が研究授業を公開。 ・ 年間の成果と課題の分析 (2 月)	・ 学力調査の分析から各学年が課題を設定し、その解決に向けた授業研究を行うことができた。 ・ 教員が主体的にここまで校内研究を構築できたことは評価できる。	◎
3 継続	ICT 活用	全学年 全教科	通年	・ 端末活用① (検索・資料作成・AI ドリル等) ・ 端末活用② (協働学習等)	週案 授業観察 (年 3 回)	自己評価 活用① 全教員が通年で実施 活用② 3 年以上の担任はいずれかの単元で実施	・ 活用①について全教員実践 ・ 活用②について 3 年以上で実践	・ 活用①については日常的に実践できている。 ・ 活用②についても活用頻度を上げていくことを目指したい。	○
4 継続	少人数指導	1, 2 年 算数	通年	・ 都の時間講師を活用し、低学年の算数においても担任 + 1 のグループ編成をして指導する。	・ 週案 ・ 授業観察	・ 実施率 85%以上	・ 5 月以降は 100%	・ 1 部を除き習熟度別に実施でき、学習内容の習熟・定着を図れた。単元テスト平均 88%	◎

5 継続	読書活動	全学年	通年	・学校図書館活用年間計画の作成、実施 ・読書目標の設定 ・2年以上の探究学習 ・読み語り（図書ボランティアの協力） ・学級文庫の設置、充実 ・放課後の図書室開放	・記録用個別カード ・貸出冊数 ・週案（調べる学習）	・読書目標達成率 80% ・貸出冊数 年 35 冊/人 ・探究学習 年 2 回	・読書目標達成率は 1 年 50%、2 年 30%、3 年以上は 20% 以下。 ・システムの不具合により年度当初からの貸出データが消去されてしまい不明。 ・図書を用いた探究学習 2 回以上実施。 ・放課後開放も週 2 回実施。毎回 30 名程度利用。	・実際に読書はしているが、記録を残さない児童が多くいるため、数値に表れない面があった。 ・学校図書館スーパーアドバイザーが視察した際に図書館の環境や利活用状況、放課後の開放等の取組について高評価をいただき励みとなった。次年度は支援員配置が 2 倍になるので一層の活用充実に計画していく。 ・目標数値、記録方法等を次年度に向けて検討する。	○
6 継続	夏休み 補充教室	各学年 若干名 算数	夏 休 み 10 日間	・水泳指導と重ならない時間に設定。理解不十分な単元の補充 ・AI ドリル学習	実施前後で指標となるテスト実施。	・正答率向上	・全学年 10 日間実施 ・事前事後テストの平均正答率 D 層 2 年 60.1 ⇒ 69.4 3 年 74.6 ⇒ 88.1 5 年 79.0 ⇒ 97.1 6 年 87.7 ⇒ 97.7 B C 層 4 年 64.3 ⇒ 76.7 5 年 49.7 ⇒ 65 6 年 62.8 ⇒ 82.7	2 年以上については事前事後テストを行い、効果検証を行った。多くの児童が正答率を向上させることができ、児童も教員も一定の達成感を得ることができた。	○

7 継続	家庭学習 の定着	全学年	通年	・目安の周知：15分×学年 ・家庭学習カード ・自主学習ノートの指導 ・AIドリル学習	・左記カード ・学校評価	・宿題定着率 90%	宿題定着率 ・81.3%（教員） 宿題以外の学習 ・70.9%（保護者） ・77.8%（児童）	宿題については8割の児童が定着している（教員回答）。宿題以外の家庭学習定着についても約8割の児童（7割の保護者）ができていると回答。おおむね良好である。	○
---------	-------------	-----	----	--	---	--	---	--	---

重点的な取組事項－2		体力向上				
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
全国体力調査8種目の結果について都平均を超える		都平均を超える種目を5年度結果よりも増やす（重点種目：投力） 3年男：4種目 3年女：4種目 4年男：5種目 4年女：5種目 5年男：7種目 5年女：6種目 6年男：4種目 6年女：7種目	都平均を超える記録であった種目の数 3年男：3種目 3年女：5種目 4年男：4種目 4年女：2種目 5年男：5種目 5年女：4種目 6年男：4種目 6年女：6種目		・基準に達したのは3年女子と6年男子のみであった。 ・投力（重点）については男子で4つの学年、女子で5つの学年が都平均を超えた。また、反復横跳びとシャトルラン、50m走については多くの学年で都平均を超えた。一方、長座体前屈では低学年以外は都平均を下回った。柔軟性に課題があることが分かった。	△
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度
基礎体力の向上	全国体力調査8種目の都平均以上の種目を保持増進する。	・体育指導の充実（年間計画に基づく授業実践） ・縄跳びカード、投力強化、持久力強化実践 ・スポーツ指導ボランティア ・休み時間の活用（場の工夫） ・スポーツ推進委員の招聘		実施結果は上記のとおり	・左記の取組により走力や俊敏性、持久力の保持増進はできたと考える。課題の柔軟性については体育指導の中で体づくり運動やストレッチ等、意図的に取り組ませていくことで改善を図る。	△

生活習慣の確立 学校保健行動計画の実施	学校評価 「よい」85%以上	- 休業日明け「元気カード」 - 保健便りの活用、学級指導 - 歯の指導（全学年） - 虫歯受診率90%	- 年間計画に基づき、児童への指導はすべて実施。 - 歯科受診率 89.4% - 学校評価で「よい」教員 66.7%、保護者 77.2%	今年度も校医や保健師に協力依頼し、全学年で歯科に関わる指導を行うことができた。受診率は眼科や耳鼻科に比べて極端に低い傾向にあるが、養護教諭と担任が個別に家庭へ連絡をしたことで、今年度も約9割の受診率であった。	○
食への自己管理能力の向上	残菜率 1%以内	- 給食便り、栄養士からの手紙の活用、学級指導 - 学校園での栽培活動	- すべて計画どおりに実施 - 残菜率 1.3%	校内全体で完食を強いる指導は行っていないが、食べられる量の調整を各学級で丁寧に行い、残債を最小限に抑えている。担任以外の全教員が各教室で指導にあたったことも大きい。	◎

重点的な取組事項－3	心の醸成（規範意識・自己肯定感の向上・いじめ暴力暴言の根絶）
-------------------	--------------------------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
他人を思いやる気持ちや共に助け合って生きようとする態度の育成	教員と保護者の 学校評価「よい」90%	教員 73% 保護者 81%	児童の様子を見て指導している教員からは、もっと良くなしてほしいという思いが強くなり、やや低めの評価になったものと思われる。学校という集団生活の場、多様な人たちと関わっていくことから、思いやりの心、共生の態度は継続して重点課題として取り組んでいく。具体的な手だては後段で記す。	△

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

規律の徹底 よい子のきまり 授業規律	学校評価 「よい」85%	・看護日誌、生活指導朝会 ・全教科授業を通して指導 ・教職員による評価	教員 67% 保護者 85%	・一部の学年で生活のきまりや授業規律が定着しておらず、全教員が支援・指導にあたっている状況である。そのため、当該学年担任と専科教員の評価が反映され67%となった。当該学年については保護者とも状況を共有し改善に向けて指導を継続していく。	△
いじめの根絶 いじめをしない、許さない心、傍観者にならない	・いじめの解消率100% ・新たな重大事案ゼロ ・学校評価「よい」90% ・必ず取り組む18項目の実施	・年3回のアンケート調査 ・迅速な校内委員会による対応及び継続指導の実施。 ・基本方針の周知（6月まで） ・校長講話（年10回）	・いじめ認知件数 122件 ・発生（認知）から3ヶ月経過した案件の解消率は96.6%（59件中2件未解消で経過観察中） ・重大事案2件発生（1件解消） ・保護者評価「よい」：72.1%	・122件の多くがアンケートにより認知したもので、小さな芽のうちに解消できたものがほとんどであった。今後もいじめ防止と合わせて認知後は迅速に対応し早期解消に努めていく。 ・重大事案1件はすでに3ヶ月が経過しその後いじめは収まっているが、同じ学級内に在籍していることもあり、経過観察を続けている。 ・学校の取組について「分からない」の回答が22%あった。学校日より等で取組を発信し理解を図る。	○
道徳授業	・指導計画に沿った実施 ・道徳授業の公開	・計画に基づき授業を行い、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育成する。重点は、低は「礼儀」「生命の尊さ」「友情、信頼」、中は「友情、信頼」「生命の尊さ」、高は「個性の伸長」「相互理解、寛容」「生命の尊さ」 ・人権擁護委員との連携	・すべての学年が年間計画に基づき、実施できた。 ・道徳授業地区公開講座（1月実施）	・その時々各学年学級で重点としたい課題は生じるものであるが、本校の道徳授業はそれらと関連付けず、年間指導計画に基づき行った。すべての道徳的価値を網羅するとともに、生活指導や特別活動のような指導とならないよう配慮した。	◎

縦割り班活動	・年間指導計画の作成 実施	・異年齢集団の班で年間を通して遊びで交流する。 ・相手、他者への思いやりのある態度を育てる。	・年間計画に基づき実施	今年度は活動場所を校庭、体育館、教室の3ヶ所に広げたことで場の確保もでき、遊びの内容も広がった。 また昨年度同様に休み時間に異学年の交流が日常的に見られた。	○
特別支援教室との連携	・特別支援を要する児童の安定した学校生活 右記の方策実施 100%	・月1の教育相談校内委員会 ・月1の特別支援校内委員会 ・週1の情報交換 ・教員間の指導の引継ぎ	・左記の方策はいずれも実施 ・週1の情報交換があることで配慮を要する児童について全教員が認識できるようになっている。 ・特別支援教室担当教員と在籍学級担任との間の指導内容の共有や引継ぎ等は日常的にこまめに行うことができた。	・校内支援委員会が毎月確実に実施でき、検討を行えたことにより、特別支援教室を利用するための就学相談に7名をつなげることができた。特に6年生1名については中学進学を見据え、新規での就学相談を申請できた。	○

重点的な取組事項－4		保護者・地域との連携協力による教育活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者、地域人材との連携 あいさつの習慣化（CS 重点目標）		・年間を通したあいさつ運動 ・学校評価「よい」85%	保護者 86%	保護者、地域、学校の3者連携は年間を通して取り組むことができた。次年度は児童が主体となって取り組める活動を創出する。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
学校運営協議会及び開かれた学校づくり協議会の開催	・年7回 ・年3回	・学校運営協議会による学校経営計画の承認、あいさつ運動、学習支援、学校評価 ・開かれた学校づくり協議会による学校評価	・計画どおり実施	・各学年学級の探究学習の推進に向けてブックトラックと図鑑をインセンティブ予算で購入し下学年に設置できた。学校図書館スーパーバイザーにも画期的な取組と評価していただいた。次年度以降も継続し上学年にも広げたい。	○

保護者との連携	・年間計画により実施 ・平時であっても児童の様子を個別に伝える。(月1回程度。年10回) ・PTA行事の参加	・学校の公開(月1回) ・日常的な担任と保護者の情報共有を連絡帳で行う。 ・PTA総会及び夏のイベントに全教員が参加	・平時の連絡(情報発信) 66.7% (担任は1名を除きできていると回答) ・総会及びペットボトルロケット大会には全教員が出席できた。	・PTAイベントの縮小により、総会と夏の行事のみになったが、いずれも全教員が参加できた。 - また、保護者からの相談等にも担任だけでなく必要に応じて学年主任や管理職も一緒に対応できた。信頼関係、協力関係を築くことができています。	○
あいさつの習慣化 (CS重点目標)	・学校評価「よい」85%	・児童会あいさつ運動の継続 ・情報の発信の強化	・保護者 81% ・児童 91% ・教員 73%	・児童の多くはできているととらえている。教員の数名は十分でないと評価。引き続き実践と指導を重ねていく。	○
交通安全防災支援 ・交通安全ボランティア ・避難所運営	・毎日の登校の見守り ・交通事故ゼロ ・災害時円滑な避難所運営	・交通安全に関する安全教育 ・教員とボランティアと保護者の三位一体の見守り(通年) ・地域防災との連携マニュアル	・教員、保護者、ボランティアが計12箇所で開催できた。	・1月22日時点で登校時の事故はゼロ。引き続き、皆で協働していく。	○
学習支援	・農園ボランティア 農体験の実施 ・図書ボランティア 朝の読み聞かせの実施 ・スポーツボランティア サッカー、ダンス、タグラグビーの実施	・農体験 2, 3, 4年 ・読み語り 全学年(週1) ・サッカー教室 1, 2年 ・ダンス 中学年 ・タグラグビー 3, 4年	・読み語り(全学年)通年実施 ・サッカー教室(2月実施) ・ダンス(1月実施) ・タグラグビー(2月実施) ・花植え(低学年)	・今年度も保護者地域の多くの方に支援していただいた。 ・中川公園が使用できなかったが、ボランティアの協力により花植え等の活動が低学年でできた。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

- ・足立スタンダードの授業についてはほぼ全員が理解し実践している。特に今年度は「虎の巻」を活用した授業研究を小中連携で進めることができた。
- ・タブレット端末の利活用は全学年で取り組めた。習熟学習や撮影、調べ学習やそのまとめ、発表等、学年に応じて学習道具として扱っている。
- ・校内研究として全教員で算数の指導方法について授業研究に取り組んだ。4月の学力調査の結果を分析し児童の実態を基に、どんな力を身につけさせたいかを明らかにして進められた大きな前進であった。
- ・全学年が授業実践を公開し指導方法について協議し合う中で効果的な手立てを共有し、一人一人が自身の授業の中に取り入れることができた。
- ・サマースクールは全学年10日間実施できた。2学年以上では事前・事後テストを行い、効果検証した。多くの児童が得点を上げ達成感を得られた。

- ・放課後の図書館開放を始めたが、毎回30名ほどの参加があり好評であった。次年度は週2回から4回に増やし、読書や本を使って調べる活動の場を充実させていく。
- ・CSや開かれの予算で児童用の図鑑やブックトラックを購入し、下学年の各学級に設置できた。図書館まで行かなくても日常的に図鑑を手にする環境整備を進めることができた。次年度はさらに上学年にも広げていく。
- ・体力向上については、外遊びの奨励や体育のボール運動、短縄跳びや持久走の強化月間等を通して、投力や走力、俊敏性、持久力が保持増進できた。一方で多くの学年で課題となったのが柔軟性である。授業の中で体づくり運動やストレッチ等、意図的に取り組ませていくことで改善を図っていく。
- ・外部講師を招聘し、ダンスやタグラグビー、サッカーで楽しく運動する機会を設けることができた。今後も引き続きお願いし継続していきたい。

（２）保護者や地域へのメッセージ

- ・児童の安全安心な校内外の生活について、今年度も、保護者、地域の皆様に多大なご支援とご協力をいただきました（登校時には保護者の方に4箇所、地域ボランティアの方には7箇所の交差点で安全の見守りと挨拶指導）。またPTA役員の皆様の放課後校外パトロールも実施していただきました。おかげ様で児童の登下校時の交通事故ゼロで1年を送ることができました。感謝申し上げます。
- ・いつでも気になることがあれば連絡相談をいただきたいとお伝えしてきました。我が子に限らず、子どもたちに関わる情報をたくさんの皆様からいただき共有することができました。おかげさまで学習面、生活面、友人関係等で大きな問題となる前に対応できることが多くありました。また、保護者の皆様には何度もご来校いただき、子どもたちの学校生活の様子を見ていただきお力添えをいただきました。心から感謝しております。保護者・地域との連携協力は不可欠です。引き続きよろしくお願いいたします。
- ・図書ボランティアと農園ボランティアの皆様に変にお世話になりました。毎週水曜日にボランティアの皆様に読み語りをさせていただきました。また、図書や環境の整備を通して児童の読書推進にお力添えをいただきました。農園ボランティアの皆様には今年度は校内での栽培活動にご協力いただきました。感謝申し上げます。

（３）その他（学校教育活動全般について）

- ・学級経営の安定が、児童の安心安全や学習への集中、思いやりの心の醸成等、多くに関わることを痛感する1年でありました。7年度は校内の全学級が児童にとってまずは安心して生活できる場所にしていくために全教員で共通実践していきます。特に次年度は校内研究の一つとして「学級活動」と「児童会活動」の充実に努めます。大谷田小の子どもたちがもっている願い「よい学級（学校）であってほしい。（参画）」「友達と仲良く過ごしたい。（人間関係形成）」「自分を伸ばしたい。（自己実現）」を実現させていくため、「学級活動」「児童会活動」を柱に共通実践していきます。そして、学級の安定こそが、学習に向かい力、心の醸成にもつながっていくと考えます。
- ・より良い教育活動を推進していくうえで、教員が元気に力を発揮していくためには信頼関係は欠かせません。教員同士は当然ですが、教員と児童の信頼関係、教員と保護者の信頼関係が良好であることが大切であると思います。そのためにもまず教員は児童理解、よく分かる授業、楽しい授業を追求し児童との関係を構築します。保護者の皆様には教育活動の積極的な公開と情報発信、児童の姿を通して、信頼を得られるよう努めます。